

飼料用米「ミズホチカラ」管理情報

1 生育概況

7月の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。7月28日の生育調査の結果、目立った病害虫の発生はなく、ほぼ平年並みの生育進捗で順調に生育していました。しかし、一部ほ場において、土壌が白く乾くほど落水している状態がみられました。極端な落水は、収量の低下につながりますので水管理には十分注意をお願いします。また、今後の穂肥や病害虫防除の時期については、適期を逃さずに作業できるよう計画を立てましょう。

2 穂肥

《穂肥の種類と施用量》

下表を参考にして、基肥に使用した肥料に応じて穂肥を判断してください。

基肥に使用した肥料	穂 肥	
基肥一発肥料 (えさ米専用一発 2566 など)	穂肥の必要はありません。ただし、葉色が極端に薄い場合は、JA 粕屋各プラザにご相談ください。	
速効性肥料 (くみあい化成ベスト 444 など)	硫安	1 回目 20kg/10a
		2 回目 10kg/10a
		※2 回目は 1 回目の 7～10 日後に施用

《穂肥時期の目安》

穂肥は下表の時期を参考に施用してください。

品種	出穂前日数	田植え時期別の施用時期の目安		
		田植え時期	1 回目の穂肥時期	(参考) 平年出穂期
ミズホチカラ	20～25 日	6 月 7 日頃	8 月 4～ 9 日頃	8 月 29 日頃
		6 月 14 日頃	8 月 8～13 日頃	9 月 2 日頃
		6 月 21 日頃	8 月 10～15 日頃	9 月 4 日頃

3 病害虫

《8 月の病害虫発生予報（県病害虫防除所 7 月 31 日発表）》

	いもち病	紋枯病	ぜりうか	トビイロウカ	コブノメイガ	斑点米カメムシ類
平年比	やや少	一	少	やや少	やや少	多
前年比	並	並	少	並	少	多

《イネカメムシについて》

近年、増加しているイネカメムシは水稲品種にかかわらず収量・品質に悪影響を及ぼしています。8月の斑点米カメムシ類の発生は、平年及び前年よりも多いと予報が出ていますので下記対策により防除を徹底しましょう。

被害	・ 出穂期に被害にあった場合、不稔粒が発生し収量が低下 ・ 乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・ 「出穂期」と「出穂期の 14 日後」の 2 回防除が基本 ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・ 防除薬剤は「エクシード剤」か「スタークル剤」を使用



稲の株元に潜むイネカメムシ

《トビイロウカについて》

県内には 6 月 16 日及び 23 日に飛来したと推定されており、**防除適期は“8 月 11～18 日頃”**と考えられます。ミズホチカラは熟期が遅くトビイロウカの被害を受けやすいため、今後の発生に注意しましょう。

《コブノメイガについて》

近年、コブノメイガによる葉の食害が増加傾向にあります。**止め葉への食害が多いと収量低下につながるため 8 月中旬頃の予防防除が重要です。**

<<病害虫別の使用農薬について>>

対象病害虫等	農薬名	処理量(10a あたり)	使用時期	使用回数
ウンカ類、カメムシ類	エクシード粉剤 DL	3 kg	収穫 7 日前まで	3 回以内
	エクシードフロアブル	2,000 倍		
	スタークル豆つぶ	250g/10a		
	スタークル粒剤	3kg/10a		
稲こうじ病、ごま葉枯病 いもち病	ノンプラス粉剤 DL	4 kg		2 回以内
	ノンプラスフロアブル	1,000 倍		
コブノメイガ	ロムダンゾル	1,000 倍	収穫 21 日前まで	

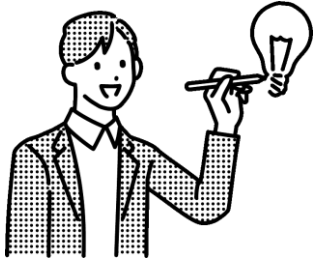
※粒剤は防除適期よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

※殺虫剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

4 水管理

下表を参考に水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後～出穂 1 週間前	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょう。
出穂前後 1 週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょう。
出穂 1 週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょう。



飼料用米の収量アップのポイント！！

- ①中干し以外では、ほ場から水を切らさないようにすること
（ガスわき対策や間断かん水などの短期間の落水を除く）
- ②収穫前の落水は、早くても 1 週間前を目安とすること
（水利の関係で用水が早く切れる場合は、用水が切れる前に十分に入水して水尻を止めておきましょう）

【農薬安全使用のポイント】

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④防除履歴を記帳しましょう
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう